

記事の選択に広告主の御機嫌を伺ふやう  
になつては確に新聞紙の墮落である

# 企 画 展

悠久の生をもつた新聞社の万年の大計の為には組織

に委して記憶に委せざる調査機関がなければならぬ

# 今 に 生 きて 居 る

記者の心理的傾向からいへば、全部知らないことを知らせて貰ふ  
も、知っていることについて、更に多くを知りたいといふ事がある

# 楚 人 冠 の 新 聞 改 革

報道を与ふるものでなければならぬ

「縮刷版」なるものもまた特殊の用紙を用ひて保存

杉村楚人冠が現代の新聞に残した功績を振り返る

本来新聞紙は、現代の人と現代の社会とを相手に  
する、初めから相手のきまつたものである

平成 30 年 7 月 18 日 (水) ~ 10 月 8 日 (月・祝)



物語の生まれるまち あびこ

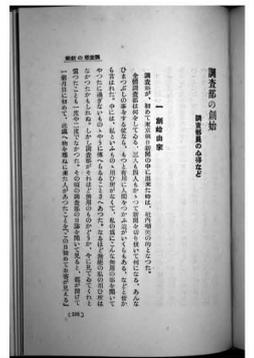


我孫子市杉村楚人冠記念館

# 調査部と縮刷版

記事を分類・整理したうえで保存する調査部と、新聞を保存しやすいように発案した縮刷版。昔の新聞記事が残ったのは楚人冠のおかげ？

『楚人冠全集』第8巻（杉村家蔵）より「調査部の創始」→



## 新聞社の社会事業

日露戦争が終わり、スクープ合戦で読者が獲得できなくなった新聞社。目を付けたのは、旅行と探検。

← 『満韓巡遊船』（杉村家蔵）より朝日新聞社主催旅行の記事

## 新聞記者の教科書

高い能力を持った記者を育成するために始まった、大学での新聞記者教育。楚人冠が講義録をもとに書いた「新聞記者の教科書」。

『最近新聞紙学』（杉村家蔵）昭和45年の復刻版→



## 記事審査部と投書

日本で初めて記事の正確性を審査する部署を設け、投書もその担当にした楚人冠。目指したのは、議論のある紙面と、読者へのサービス。

← 楚人冠の投書をきっかけに書かれた雑誌記事の切り抜き（杉村家蔵）



## 我孫子市杉村楚人冠記念館

〒270-1153 千葉県我孫子市緑2-5-5 電話 04-7182-8578

休館日 月曜日（9月17日、9月24日、10月8日は開館）

9月18日（火）、9月25日（火）

開館時間 9:00～16:30（最終入館16:00）

入館料 一般300円／高校・大学生200円 中学生以下無料

団体20名以上2割引 障がい者免除あり

3館共通券 一般600円／高校・大学生400円

鳥の博物館、白樺文学館入館料込

交通 JＲ常磐線・成田線我孫子駅下車 徒歩9分

阪東バスアビスタ前下車徒歩5分

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

車イスのご利用は事前にご連絡ください。